

## 大涌谷（箱根山）での地磁気の研究観測の実施について

気象庁気象研究所は、火山活動が活発化している大涌谷（箱根山）で、地磁気の研究観測を実施します。

気象庁気象研究所では、これまで、火山における地磁気の研究観測を実施しています。

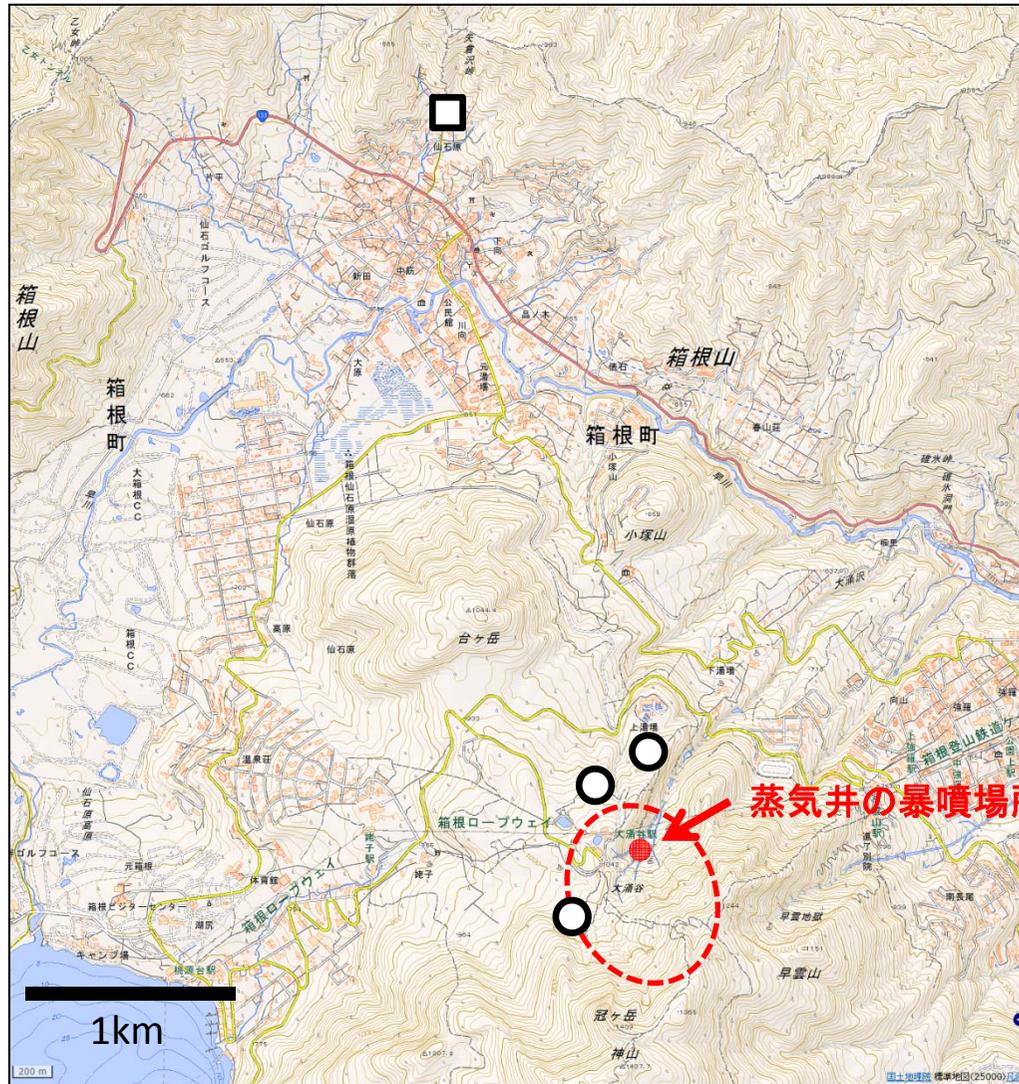
大涌谷（箱根山）では、4月下旬以降、火山性地震が増加し、地殻変動が観測されるなど、活発な火山活動が続いています。火山活動が活発化した火山では、地下の温度上昇に伴い、岩石の磁性が失われる状態（岩石は磁気を持っていますが、一定の温度を超えると磁気を失う性質があり、熱消磁といいます）が観測されることがあります。このため、気象庁気象研究所は、大涌谷（箱根山）の地下の熱の状態について、5月27日から地磁気の研究観測を実施します。

この研究観測では、大涌谷（箱根山）周辺で、可搬型の地磁気の観測機器を用い、観測点を決めた上で、当面2週間程度の間隔で繰り返し観測を実施することとしています。

本研究観測は気象研究所と神奈川県温泉地学研究所との共同研究「地殻変動データを活用した火山活動評価等に関する研究」の一環として実施するものです。

【本件に関する問い合わせ先】  
気象研究所企画室  
TEL：029-853-8535（広報担当）

# 観測点配置予定図



- 全磁力観測点(参照点)
- 全磁力観測点(繰返し観測点)
- 警戒が必要な範囲(想定火口域)

蒸気井の暴噴場所